

平成 28 年度

大阪新美術館
建設準備室
連携事業報告書



大阪新美術館(仮称)は、北区中之島4丁目の建設予定地に、2021年度の開館をめざして整備計画を進めています。また、今年度は公募型設計競技を行い、公開プレゼンテーションをへて、この平成29(2017)年2月には建物の最優秀設計案を決定しました。美術館の整備計画がオープンに向けていよいよ大きく動き出します。

新しい美術館は、作品・資料の収集・保存、研究、展示といった美術館の基本的機能を大切にしつつ、そこにとどまることなく、美術館からの一方的な情報提供になりがちな従来の教育普及活動からも歩を進め、美術館の外と積極的に「連携」しあうことをめざします。

美術館の外に自らを開き、さまざまな立場の人びとと経験や成果を分かち合いたい。外の価値観に触れることで、コレクションや学芸員といった美術館の資源に新たな意義や活用の道を見出したい。そして、アートやデザインを介した出会いと協働の場、いわば「プラットフォーム」となって、美に親しむ喜びをより多くの人に届けたい。新しい美術館の開館を前に、私たちはそのように願っています。

この5年間に、こども、学校、市民、図書館、地域などとともに、さまざまな連携事業を進めてきました。手探りで事業を立ち上げ、検証と改善を繰り返して成熟させてきた4年間をへて、今年度は事業の質の深化や間口の拡大に努めました。従来の活動に加え、2つの展覧会を通してこれまでの連携の経験を自らのコレクション展示に活かし、開館後の活動に対するイメージを膨らませることができたのも、今年度の大きな成果です。この5年間で得られたことを糧に、今後は事業プランの策定など、美術館開館を見据えた活動に取り組んでまいります。

最後になりますが、参加者のみなさまや、事業の関係先のみなさまに、心よりお礼を申し上げます。新しい美術館の整備に向けた今後の私たちの活動に、一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成29(2017)年3月
大阪新美術館建設準備室

対話型鑑賞ワークショップ キッズ!ファンタスティック☆ミュージアム p.2

平成28年10月30日(日)〈こどもの部〉、11月5日(土)〈おとなの部〉

みる×つくる — 創作活動による鑑賞授業 pp.3-4

平成29年1月18日(水)、19日(木)、24日(火)、26日(木)、2月1日(水)、2日(木)

ワークショップ 1枚の段ボールからはじまる“居場所”づくり pp.5-6

平成29年1月29日(日)

トークイベント 〈記録写真〉をよむ—『具体美術協会』関係資料より p.7

平成28年10月7日(金)

新美術館×図書館 わくわくコラボ p.8

▶レクチャー “春日出のおばけ煙突”と“だまし絵”

平成28年12月4日(日)

▶^{アート}技術と^{アート}美術 マルキ號製パンと大阪の美術

平成28年12月17日(土)

クロストーク 大阪の版画を語る—『版画8』から現代まで p.9

平成29年1月22日(日)

IDAP国際シンポジウム 暮らしを伝えるかたち p.10

平成29年3月24日(金)

外部研修生(インターン)の受入れ pp.11-12

▶吉原治良 作品調査

平成28年6-7月

▶生田花朝 資料調査

平成28年8月

連携事業 5年の歩み p.13

みる×つくる ―― 創作活動による鑑賞授業

大阪府立江之子島文化芸術創造センターと共同で開催した「大阪版画百景」展に合わせ、小学校の授業団体を対象とした鑑賞ワークショップを企画した。ワークシートを用いた通常の鑑賞に加え、出品作家の指導による創作活動と対話型鑑賞を行うことにより、児童の興味を高め、より豊かな鑑賞体験ができる内容とした。

大阪市内の小学校から希望校を募り、市立小学校3校が参加。うち1校は鑑賞体験を発展させた学習を研究授業として実施した。他に鑑賞プログラムのみ実施した小学校も1校あった。

講師：立嶋滋樹(美術家、「大阪版画百景」展出品作家)

日時・参加者：

平成29年1月18日(水) 10:00-12:00/堀江小学校 4年生 2クラス 75名
1月19日(木) 10:00-12:00/堀江小学校 4年生 2クラス 76名
1月24日(火) 13:30-15:00/大開小学校 5年生 2クラス 55名 ※鑑賞プログラムのみ
1月26日(木) 13:00-14:50/大道南小学校 4年生 2クラス 74名 ※後日研究授業
2月1日(水) 10:00-12:00/本田小学校 4年生 2クラス 64名
2月2日(木) 10:00-12:00/本田小学校 4年生 1クラス 34名

会場・協力：大阪府立江之子島文化芸術創造センター

助成：一般財団法人 地域創造

「大阪版画百景 ―大阪新美術館×大阪府20世紀美術コレクション―」展関連イベントとして実施
[会期 平成29年1月18日-2月11日/会場 大阪府立江之子島文化芸術創造センター/主催 大阪府立江之子島文化芸術創造センター、大阪新美術館建設準備室]

★ワークショップがめざすもの

制作体験を鑑賞と組み合わせることで、児童が作品からさまざまな“気づき”を得ることを目的とした。また、小学校では接する機会の少ない多版多色技法を簡易に体験することで、版画に対するイメージを拡張することも目的とした。また、小学校教員に美術館等における鑑賞授業を体験してもらい、その教育効果を実感してもらうこともめざした。

★ワークショップの内容

【創作活動】

・導入・フロッタージュ体験

講師より「今日は〈絵をかく〉のではなく〈絵をつくる〉」ことが伝えられ、その方法としてフロッタージュ(こすり出し技法)を実演。講師が紙の上を色鉛筆でこすると下に隠されていた鍵のかたちが浮かび上がり、児童たちからは驚きの声が漏れた。

児童たちは講師からフロッタージュに適した色鉛筆・クレヨンの持ち方と、色が薄いときは、上から濃い色を重ねるとよいことを教わり、イスの背もたれの穴を使ってフロッタージュを体験した。



・色を重ね、かたちを重ねて

講師は「絵をつくる」ための次の段階として、色やかたちを重ねてフロッターージュすること、また紙の向きを変えたり、位置をずらしたりすることで同じものから思いがけない形やパターンが生まれることを実演で示した。

その後、児童たちは館内のさまざまな場所に行き、凹凸のあるものを見つけてはフロッターージュを重ねていった。配色を考えながら制作する児童、なるべくたくさんのかたちを見つけようとする児童など、各自の興味と工夫に従い、楽しみながら絵をつくっていった。



【鑑賞活動】

・講師の作品を鑑賞

講師の立嶋氏は「大阪版画百景」展の出品作家でもある。児童たちは創作活動の前か後に講師と対話しながらその作品を鑑賞した。抽象的な自身の作品についての「何に見える？」という問いから始まり、それに対する児童の発言に沿うかたちで、講師は制作意図などをやさしく説明した。



・ワークシートによる鑑賞

展覧会全体を対象とした鑑賞プログラムでは、参加校の教員が当準備室学芸員と相談しながら作成したワークシートを用いた。ワークシートの形式やプログラムの細部は学校により異なるが、鑑賞を前半と後半に分け、異なる働きかけを行って鑑賞を進める点は、どの学校も同じであった。

・お気に入りを見つけ、じっくり見よう

鑑賞の前半では展覧会全体を見ながら、気になった作品、気に入った作品をいくつか見つけてメモする活動を行った。その後中締めとして、自分の選んだ作品やその簡単な特徴を数名の児童が発表し、自分とは違った作品の見方があることを意識する場を設けた。

後半の鑑賞活動では、前半で選んだ作品の中から、さらに1-2点の作品を選んでじっくりと鑑賞した。児童は作品の中の気に入った部分や作品を見て考えたお話など、自分なりの「発見」をワークシートに絵と字で書き込んでいった。最後には数名が発表し、作品についての発見を共有する場とした。



ワークショップを終えて

「大阪版画百景」展の展示作品には現存作家のものが多いため、本ワークショップでも出品作家を講師として、創作と鑑賞を結びつけられる内容とした。展示作品の作者自身が対話型鑑賞や創作の講師となり、児童と向き合うことで、創作と鑑賞という一見対照的な活動に連続性をもたらし、児童は鑑賞・創作両面において集中力を途切れさせることなく、こどもらしい想像力、独創性を発揮していた。

今回は偶然に応募が4年生に集中したが、他の学年でも効果が期待され、今後も実施してみたいと思わせるワークショップであった。(学芸員 三井知行)